『思い出の修理工場』

石井 朋彦／著　サンマーク出版（2019 年）

古くから工業がさかんなまちにうまれたピピ。ピピのおじいちゃんは、壊れてしまったおもちゃをまるで魔法のように直してしまう職人です。ピピはおじいちゃんみたいな職人になるのが夢でした。でも、おじいちゃんは亡くなって、もらったブリキのロボット・フリッツも壊れてしまいました。泣きつかれて眠ってしまったピピが目を覚ますと、奇妙な影が動いています。その影は、おじいちゃんをよく知っている様子でした。ピピは思い出を守るために、「思い出の修理工場」へ向かいます。

『「面白い！」を見つける　物事の見え方が変わる発想法』

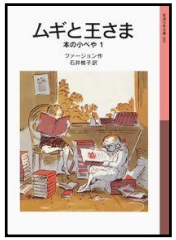
林 雄司／著　筑摩書房（2025 年）

実は本の帯って、あまり好きじゃなくて……。だってあまりにも大げさで、「面白い」を押しつけられている気がしません？「あまりの衝撃にしばらく放心状態になりました」とか書かれても冷めちゃうし。同じようなことが SNS とかにもあって。日常にはもっと自然に「面白い」が潜んでいます。私みたいに「おしきせのエンタメじゃ喜べないひねくれもの」や、自分の「面白い」を見つけたり作ったりしたい人、もしかしたらこの本がちょっとしたヒントになるかもしれません。

『ムギと王さま』

ファージョン／作　石井 桃子／訳
岩波書店（2001 年）

この本には、ふしぎで楽しいおはなしが 14 編つまっていて、魅力的なキャラクターがたくさん登場します。月がほしくて泣いた王女さま、世界のふしぎを全て見たいと願う金魚、火の川からモモの木を守った女の子、あまりに大きすぎて人に見ることができない巨人など個性豊かな登場人物が、みなさんをふしぎな世界へと誘います。ぜひふしぎの世界を楽しんで、お気に入りの物語を探してみてください。



『なぜ孫悟空のあたまには輪っかがあるのか？』

中野 美代子／著　岩波書店（2013 年）

『西遊記』（岩波書店）の翻訳や『西遊記の秘密』（福武書店）など、西遊記関連の著書を多数出版している作者が、ジュニア向きに書いた本です。『西遊記』は中国の四大奇書の１つで、全 100 回の超大作。唐の時代に、孫悟空・猪八戒・沙悟浄といった供を連れ、中国から天竺（インド）まで仏教の経典を取りに行く玄奘三蔵の冒険物語は、数々の苦難に見舞われ波乱万丈です。孫悟空の頭の金箍をはじめとする、謎に満ちた西遊記の世界を読み解いていきましょう。

『本屋のワラシさま』

霜月 りつ／著　早川書房（2019 年）

「月見通り商店街」の一角にある水谷書店。その店主・ヨシミが入院する間、甥の啓が店を預かることになった。啓は大型書店で働いていたが、ある事件をきっかけに辞めてしまう。その事件の影響で、啓はどんな本を見ても面白いと思えず、本を読むことができないというトラウマを抱えていた。そんなトラウマ抱える啓の前に、水谷書店に住みつく座敷童子のワラシが現れる。啓はワラシとぶつかりながらも、店に訪れるさまざまな悩みを抱えるお客様と出会い、お客様に本を繋いでいく。

『不思議の国のアリス』

ルイス・キャロル／作　脇 明子／訳
岩波書店（2000 年）

アリスは、お姉さんと一緒に土手に座っていました。お姉さんが読んでいる本はつまらなさそうで、やることもないので眠くなってきました。すると、チョッキを着た大慌ての白いウサギがすぐそばを走っています。「たいへんだ！」とひとりごとを言いながら、ポケットから取り出した時計を見て、また走り出しました。こんなめずらしいウサギは見たことがありません！白ウサギが気になってしょうがないアリスは、あとを追いかけて、穴に飛び込んでいました。穴のさきには…？

他にもあるよ　こんな本

・『蜘蛛の糸』
芥川 龍之介／著　角川春樹事務所
（2011 年）

・『地震はなぜ起きる？』
鎌田 浩毅／著　岩波書店（2021 年）

・『僕が七不思議になったわけ』
小川 晴央／著 KADOKAWA（2014 年）

・『不思議がいっぱいあふれだす！』
芥川 龍之介／（他）著　くもん出版
（2007 年）

・『生きものは不思議』
河出書房新社／編　池田 譲／（他）著
河出書房新社（2023 年）

・『トロイメライ』
村山 早紀／著　げみ／イラスト
リットーミュージック（2019 年）

・『漢字ハカセ、研究者になる』
笹原 宏之／著　岩波書店（2022 年）

・『ようこそ地球さん』
星 新一／著　新潮社（1972 年）

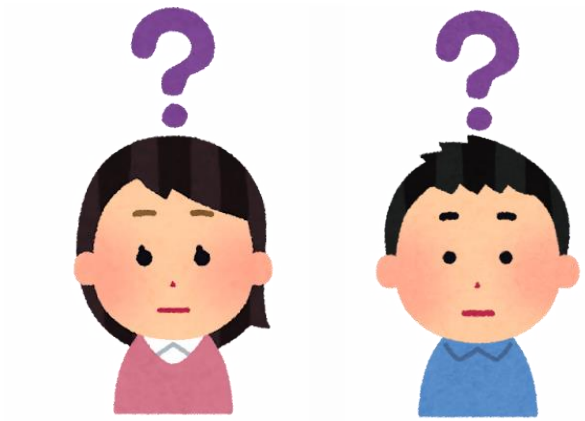
面白い本は
見つかったかな？

次回も
お楽しみに！！

富田林市立図書館

2026年　5月　発行

YA通信
第81号

テーマ

いろんな「不思議」にふれる